

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ワンセルフとみおか			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 14日		～	2025年 2月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 14日		～	2025年 2月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が適切に実施されている。 活動プログラムが固定化しないよう工夫し、子どもに合わせた柔軟な支援を提供している。 定期的に支援の記録を取り、支援の振り返りと改善を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動プログラムは毎日記録し、翌日の支援に反映させている。 個別の目標や課題を表にまとめ、支援内容に活かしている。 児童発達支援計画の作成において、職員全員が意見を出し合い、共通理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援開始前・終了後の職員間の打ち合わせを強化し、チーム連携の質を向上させる。 外部研修の参加を増やし、より専門的な知識や技術を学ぶ機会を拡充する。 活動プログラムの評価を定期的実施し、子どもの成長に応じた内容の見直しを行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> 生活空間が子どもにわかりやすく構造化されており、視覚的なサポートが充実している。 必要に応じて個別の部屋や静養スペースを利用できる環境が整っている。 施設の清潔さや快適な空間作りが徹底されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵カードや写真を活用し、活動の流れを視覚的に伝えやすくしている。 子どもの特性に応じた「居場所づくり」を意識し、安心できる空間を確保している。 活動に合わせて部屋を移動し、適切な環境で支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 玄関などバリアフリー未対応の部分を改善し、より安全で快適な施設環境を整備する。 クールダウン用の静養室の用途を明確化し、より落ち着ける空間へと改善する。 子どもが活動しやすいように、家具や備品の配置を定期的に見直し、より適した環境を提供する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から保護者と連絡を密に取り、子どもの状況を共有している。 児童発達支援計画の作成時には保護者の意向を尊重し、丁寧な説明を行っている。 障害児相談支援事業所や関係機関との連携を図り、支援の質を向上させている。 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡ノートやお便りを活用し、保護者との情報共有を強化している。 就学移行時には小学校や特別支援学校と情報を共有し、スムーズな移行支援を行っている。 地域の保育所や幼稚園との連携を通じて、他の子どもと交流する機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会や家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)を導入し、家族支援の充実を図る。 事業所の活動内容をHPやSNSで積極的に発信し、より透明性のある運営を目指す。 地域の関係機関とのネットワークを強化し、より包括的な支援体制を整える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 地域の保健、医療、福祉、教育機関との連携が十分とは言えず、支援が孤立しがち。 地域のイベントや行事に参加する機会が少なく、事業所の活動が地域に十分認知されていない。 他の児童発達支援センターや障害児支援事業所との情報共有が限定的で、支援の幅が狭くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所単独での支援に重点が置かれており、地域とのネットワークを広げるための活動が不足している。 これまで地域の行事への参加や他機関との交流の機会を計画的に持ってこなかった。 他事業所や関係機関と連携する明確なルールや仕組みが整備されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との定期的な会議を実施し、情報共有や支援の連携を強化する。 地域イベントへの参加や、事業所内での地域向け行事を企画し、地域に開かれた運営を行う。 他の児童発達支援事業所と連携し、支援プログラムや成功事例の共有を進める。
2		<ul style="list-style-type: none"> 現在の業務体制では、保護者向けの支援プログラムを計画・実施する余裕がない。 保護者同士の交流の場が制度的に設けられておらず、自然な関わりが生まれにくい。 相談や意見収集の方法が明確でなく、保護者の声が業務改善に十分反映されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアレント・トレーニングや保護者向けの研修会を試験的に実施し、支援の質を向上させる。 保護者会を定期的開催し、情報交換の場を提供する。 相談窓口の設置や意見収集の仕組みを明確にし、迅速かつ適切に対応できる体制を整える。
3			